

Clinical Question 7

非特異的腰痛に対して、モビライゼーションまたはマニピュレーションは有用か

推奨 非特異的腰痛患者に対するモビライゼーションまたはマニピュレーションを行う際には、条件付きで推奨する。

推奨の条件：あり

- ・ 期・中期効果に着目する場合
- ・ 疾病に対する基本的知識をもち、十分なトレーニングを行った理学療法士が実施する場合

推奨の強さ：条件付き推奨 □エビデンスの強さ：とても弱い

□作成グループ投票結果

当該介入に反対する強い推奨	当該介入に反対する条件付き推奨	当該介入・対照双方に対する条件付き推奨	当該介入の条件付き推奨	当該介入の強い推奨	推奨なし
0% 0名	0% 0名	36% 4名	64% 7名	0% 0名	0% 0名

◆CQの構成要素 (PICO)

P (Patients、Problem、Population)			
性別	指定なし	年齢	指定なし
疾患・病態	非特異的腰痛	その他	指定なし
I (Interventions) / C (Comparisons、Controls、Comparators) のリスト			
モビライゼーション、マニピュレーション、一般的な理学療法、治療なし			
O (Outcomes) のリスト			
	Outcome の内容		
O1	生活の質の改善		
O2	歩行能力の改善		
O3	神経症状の改善		
O4	疼痛の軽減		
O5	治療期間の短縮		
O6	可動性改善		
O7	日常生活活動改善		

解説

◆CQの背景

非特異的腰痛とは、医師の診察および画像の検査 (X 線画像や MRI など) で腰痛の原因が特定できる特異的腰痛と違い、厳密には原因が特定できない腰痛のことをいう。臨床的特徴としては、多くは椎間板のほか椎間関節、仙腸関節といった腰椎周辺の関節部分、そして背筋など腰部を構成する組織のどこかに痛みがある可能性は高いが、特異的、つまり、どこが発痛源であるかを厳密に特定できる検査法がないことから痛みの起源を明確にはできないことが挙げられる。治療に関しては基本的には保存療法が実施され、それらには運動療法、徒手療法、物理療法、装具療法がある。徒手療法に含まれるものとして、関節モビライゼーションや関節マニピュレーションがあるが、その効果については明らかにされていないことから、検証の必要がある。

◆エビデンスの評価

採択された 3 論文¹⁻³⁾を検証した。疼痛軽減の即時効果を認めた論文は 1 編¹⁾、中期で効果を認めた論文が 2 編^{2,3)}であった。日常生活活動 (Activities of Daily Living: ADL) は 3 編¹⁻³⁾とも中長期 (3 か月から 12 か月) で効果を認めた。2 編^{1,2)}は、一般的理学療法や物理療法と比較してモビライゼーションの効果を認めている。他の 1 編³⁾は、横隔膜に対するアプローチ法と比較しどちらも疼痛軽減と ADL の改善を認めている。しかしながら、論文数の少なさやバイアスリスクの問題がある。このようなことから、条件付き推奨とし、エビデンスの強さはとても弱いと判断した。

◆益と害のバランス評価

疼痛は即時、中期（3か月から6か月）、ADLは中長期（3か月から12か月）で改善を期待できる可能性がある。論文数が3編と少なく判断が困難である。有害事象については言及されておらず望ましくない影響（害）は小さいと考えられる。従って、益が害を上回ると考える。

◆患者の価値観・希望

患者にとって、疼痛軽減とADLの改善に期待ができることは価値がある。自主的なストレッチを家庭で行うことによって短期～中期的に疼痛が軽減されることには価値がある。

◆コストの評価

保険診療の範囲内でありコストはわずかであるが、治療期間が12か月程度に及ぶことからコストや時間の増加を見込む必要がある。

◆文献・検索式はWeb掲載 <http://>

- 1) Balthazard P, et al: Manual therapy followed by specific active exercises versus a placebo followed by specific active exercises on the improvement of functional disability in patients with chronic non specific low back pain: a randomized controlled trial. BMC Musculoskeletal Disorders 2012; 13:162.
- 2) Leena N, et al: A Randomized Trial of Combined Manipulation, Stabilizing Exercises, and Physician Consultation Compared to Physician Consultation Alone for Chronic Low Back Pain. Spine 2003;28(19):2185-2191.
- 3) Mirelia MS, et al: Osteopathic Manipulative Treatment Including Specific Diaphragm Techniques Improves Pain and Disability in Chronic Nonspecific Low Back Pain: A Randomized Trial. Arch Phys Med Rehabil 2018; 99: 1720-1729.